

4月「0歳0カ月 ぶじ生まれたよ」

はじめまして。今治在住、1歳の子の母です。

このたびの初コラム、緊張しております。

初めての子育てにあたふたする一方でのこのチャレンジ……。本音は「はたして毎月どんなことが書けるかな?」「私で良いのかな?」等とはなはだ不安ばかりです。

楽しいお話を共有できるよう、一生懸命がんばります。

子育て中の皆さんにちょっぴりでも「ふふっ」と笑って頂けるひとときを提供できたなら、とてもうれしいです。

これから2年間、どうぞよろしく願いいたします。

ではさっそく、母になった頃のお話から始めます。

春の夜、予定日よりもずいぶん早く、とつぜん子どもが生まれました。大きい病院での緊急帝王切開です。

子どもは1,500gに満たず、即NICUに入りました。

小さいながらも、しっかりと産声をあげ、すこぶる元気な様子だったと聞いています。

私は全身麻酔で意識はなく、誕生時の様子はあとから教えてもらいました。

あれよあれよという間に、思い描いていたお産とはぜんぜん違う形で、子どもは私の元にやってきました。

とはいえ、母子ともに命が助かったことに、毎日感謝の思いでいっぱい産後でした。

全身ぼろぼろで情緒も不安定でしたが、お腹の子にやっと会え、やっぱり幸福でした。

NICU面会は、めずらしい経験でした。

私の方が子どもよりも先に退院し、子どもに面会するため、数週間病院に通いました。

コロナ禍まただ中で、面会は「1日15分」のみ。土日祝日もOK。

赤ちゃん達を守るためにルールはたくさんあるのですが、それでも、院内の他病棟では面会はほぼほぼ不可で厳しく制限されている最中、NICUのみ特別扱いです。

お腹の傷の痛みを耐え、よろよろの体で、日々せっせと通いました。親として初の試練！・・・だったのかもしれませんが。

いざNICUに到着すると、15分間は大忙しです。

保育器に入った子どものそばで、まずは子どもの状況（体重、体調、チューブで摂るミルク量、排せつ、投薬、普段の様子など）をいろいろ尋ね、

それからようやく子どもを見て、そっとさわったり、話しかけたり、写真を撮ったり・・・。

そうこうしているとあっという間に時間が来るので、大急ぎで退室します。

先に子どもに接してしまうと、冷静に話をするどころではなくなってしまうので、私の場合はこんな流れですごしていました。

退室時、子どもとはなれがたい気持ちでいっぱいではあるものの、子ども一人を置いて帰ることに不安はありませんでした。

子どもがとても良い環境にいると感じたからです。

万全の治療や看護を受けていることはもちろんのこと、小さな箱の中でぬくぬくと守られ手厚くお世話され、子どもはいつもリラックスしている様子でした。

いつもあれこれと心配しつつおそるおそる顔を見ると、当の本人は「ふぁ〜っ」と大きな口を開けてあくびをしたり、すやすやとそれはもう気持ちよさそうに寝ていたり、のんびりムード。その姿を見て拍子抜けし、ほっと安堵。そんな日々がつづき、私の方もリラックスした気持ちで子どもに会えるようになりました。

赤ちゃん達のすごす環境は、なるべく「お母さんのお腹の中」を再現しているのだそうです。

そう聞くと、まるでお腹にいた時の様子をクリアな板ごしにのぞいているようで、おもしろいと思うようにもなりました。

病院を出ると、草花や風に初夏を感じます。「今日もかわいかったなあ」と、ぐっとかみしめて温かい気持ちで帰ります。

もうコロナ禍からは抜け出したようなそうでもないような今春、面会ルールも緩和されるのでしょうか。

赤ちゃん含めご家族が入院中の皆さんが、もっと一緒にいられる時間が増えたらといいな・・・と願っています。

ではまた来月・・・。

最後までお読みくださり、ありがとうございました！